



今時の定年退職

多賀谷 弘孝

私はこの3月をもって定年退職となった。1986年、館林高校（5年間勤務）に赴任したのを振り出しに、桐生西高校で13年間、伊勢崎東高校・伊勢崎高校で12年間、そして伊勢崎清明高校で7年間の合計37年間の教員生活を何とか無事に終えることができた。職員室で花束をいただき、挨拶をさせてもらった。その後、親しい方から退職のお祝いが届いたり、お祝いの会を開いていただいたりした。有り難いことだった。

定年退職して悠々自適は昔の話

しかし、定年退職し年金をもらって悠々自適というのは今は昔の話。私の年代は年金支給開始年齢が65歳になったため、60歳で定年を迎えても再任用職員として仕事を継続する人が大半だ。私も伊勢崎清明高校で働き続けている。そのためか、いっこうに退職したという気分になれずにいる。

せめて窓際でのんびりか、というところでもなく仕事の内容も変わらない。授業のほかには保健主事と県の放送部の事務局長は継続だし、今年も初任者研修の指導担当にもなった。変わったことといえば、1枚目だった出勤簿が3枚目になったこと（出勤印を押しにくい！）、職名に必ず「再任用」という肩書きがつくこと（いちいち言われなくても分かっている！しかも俺たちはただの再任用じゃなくて今年から始まった「暫定」再任用っていう、なんだかすごいやつなんだ）、給与・ボーナスが下がったことくらいである。なかでも給与月額が前年の6割に、ボーナスにいたってはその月額給与の1.1ヶ月分しか支給されない（ボーナスが20万円って、いつ以来だ！？）。でも、もらえるだけいいのだ、と自分に言い聞かせ、馴染みの酒屋でいつもよりちょっと高級な酒を仕入れて帰る。

同じ職場には教員採用試験の合格を目指して一生懸命に仕事や部活動（あえて仕事と部活動を分けて書く）に、そして試験勉強に励んでいる若者がいる。私が再任用で働かなければ前途有為な若者に1つ席を譲ることができるのは分かっているのだが、こちらにも背に腹は代えられない。でも、若者にあまり迷惑をかけて「老害」とは言われたくない。

新システム「キナコ」とは？

朝会で「授業アンケート」実施の連絡があった。一昨年までは紙で実施していたが、昨年からクロームブックで配信して行っている。マニュアルを読む。『GoogleのトップページからDriveに入る→右上のランチャーをクリックする』（**落ち着け！ 昨年やったことだ。今年だってできるはず**）『共有アイテムをクリックする→授業アンケートのフォーマットを開いたら、縦の3点リーダーをクリックしてコピーを作成する。コピーしないと元原稿が失われてしまいます』（**なんだかドキドキしてきた。このボタンをクリックしていいのか？ 隣の若者Sさんに確認するか？ でも、彼も忙しそうだ**）・・・こんな時の気持ちは、後ろに他の客が並んでいる店のレジで、機械操作が上手くいかない時の気持ちによく似ている。心臓に良くない。

とある日、Sさんはその日もPCに向かって熱心に仕事をしてきた。今年転勤してきたばかりなのに職場にも馴染んで、明るく前向きに仕事に取り組む好青年だ。見たことのない画面だったので、忙しいのに悪いなと思いつつ話しかけてみる。「今日は何をやっているの？」「今度の職員会議で『きなこ』の研修をやるんで、その資料作りです」（ん？！「きなこ？」「キナコ？」「kinako？」「黄粉？」）頭の中を様々な文字が駆け巡る。「それって、俺にも関

係あるかな？」恐る恐る尋ねてみる。「はい。全県で導入される新しいシステムで、出張・休暇の申請や朝会での連絡などの事務処理が全部これで管理できるようになるんです。うちの職場でも来年度からこれに全面移行します」明るい声で答えが返ってきた。「そ、そうなんだあ・・・」(覚える頃には再任用期間が終わっちゃうよ。俺たちのころはワープロ。「ルポ」「書院」「文豪」。画面に3行が表示できたのを見て感動したなあ)

「ところで、『kinako』って何の略なの？」無知を恥じながらSさんに聞いてみる。「『きれいなこくばん』だそうですよ」(えっ！？いくら何でもその略し方はないだろう。頭文字を取るなら『Kiko』だ。それにしても、もう少し洒落たネーミングがありそうなものだがねえ)

ICT 導入で輝く生徒や若い職員

ICTは私のような者にとっては天敵である。校長による授業参観で無理してクロームブックを使ったら、画面上のタッチする場所を間違えて收拾がつかなくなってしまった。生まれつき手先が不器用なためか、あるいは老眼が進んだためか、恐らくその両方なのだが、PC画面の細かなポイントにタッチするのが苦手だ。だが、そうした機器(私にとっては危機)が活用されるようになって好ましい変化も起きている。そのひとつが職場で生徒や若手職員の発信力・発言力が大きくなってきていることだ。若者はコンピュータやスマホを自由に使いこなす。発想も斬新でユニークだ。生徒や若い職員がICTを駆使して議論をし、様々な発信を行い、生徒会や職員会議の場で学校を動かしつつある。そうした若者の意見を、管理職も含め職員が応援する雰囲気がある。生き生きと活動する若者の姿を見るのはいいものだ。学校もまだまだ捨てたものではないと思う(でも、あなたたち若者の意見を尊重する職場を作ってきたのはこのおじさんたちだぞ！少しは敬

意を払ってね)。

もう少し働くのもいいかな

再任用は良くも悪くも1年契約である。嫌になったら辞めることもできる。そう思えば気は楽だ。そこがこれまでとは大きく違う。さて、私はこの先どうするべきか。以前のように高齢者が経験に物を言わせて存在感を示せる時代ではなくなった。だとすれば、私に何ができるのだろうか・・・。

「多賀谷さん、生徒会役員の認証状を作ってもらえますか。ちょっと俺、分からなくて」若い生徒会チーフのTさんが申し訳なさそうに頼んできた。ファイルを見る。何と「一太郎」ではないか！「おー、もちろんいいよ！これなら任せて」多賀谷さん、ずいぶん嬉しそうですね」Tさんとのやりとりを聞いていた同僚から声が掛かる(うん、うん、仕事を頼まれるのがこんなに嬉しいとは自分でもびっくりだ！人の役に立ってる実感！だけど、来年度からは「word」に統一されて「一太郎」は使えなくなっちゃうんだよなあ・・・)。

学校とは不思議な職場である。生徒を前にしたら年齢差は関係ない。対等の関係で彼らに向き合う。そうあるべきだと思う。「生徒のことでは若手もベテランもない。若手の意見もベテランの意見も同じように尊重されるべきだよ」4月、私よりも40歳近く年の若い初任のMさんに話した。若い力が躍動しつつある職場で、彼らともう少し一緒に働くの



もいいかなと思うこの頃である(それにしても40歳の差か。引くのはいいけど、私の年齢に40を足すと・・・なんだか頭がクラクラしてきた)。